別紙１－１

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※　甲　　第　　号

氏　　名　大山　卓

論　文　題　目

小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支えるハイブリッドサポートに関する一考察

論文審査担当者

主　査

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授　金井篤子

名古屋大学心の発達支援研究実践センター教授　松本真理子

名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授　中谷素之

別紙１－２

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は申請時「小・中学校特別支援学級担任へのハイブリッドサポートに関する一考察」との題目であったが，その後，さらなる検討の結果，よりハイブリッドサポートの内容を明確化したタイトルのほうが望ましいと考え，「小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支えるハイブリッドサポートに関する一考察」と題目変更したものである。

近年の特別支援教育とインクルーシブ教育システムの流れを踏まえ，小・中学校では障害のある子どもへの教育の充実が進められている。これにより，小・中学校における特別支援教育の対象となる子どもは増加傾向にあり，特に小・中学校の特別支援学級に在籍する子どもは，この 10 年間で約２倍に増加している。それに伴い，小・中学校の特別支援学級を担当する教員も増加し，特別支援教育を専門としてこなかった教員が初めて特別支援学級を担任するケースも少なくない。この場合，小・中学校の特別支援学級は，通常の学級とは異なる職務のため，新たな職務への適応が求められる。加えて，小・中学校の特別支援学級は，在籍する子どもの障害の重度化・多様化が進み，担任の負担が重くなってきている。これらの理由により，特別支援学級を担当する教員の負担や不安などが指摘されている。

この現状に対して，本研究では以下の課題を指摘している。まず，特別支援教育では，障害の特性理解や特別支援教育の基礎的知識，子どもへの指導内容・指導方法の工夫など，教員の専門性向上が欠かせない。特に小・中学校の特別支援学級は通常の学級とは異なる学級構造（学級編成や教育課程など）であり，通常の学級の担任とは異なる専門性や担当教員の心理的困難が想定されるが，これらはこれまで十分に明確化されていない。

次に支援の視点から，校内サポートである特別支援教育コーディネーターと，校外サポートである特別支援学校の 2 つを取り上げ，その問題点を指摘している。まず，特別支援学級担任の校内サポートの中心的な役割を担うのは特別支援教育コーディネーターであり，校内支援体制を整え，担任をサポートする役割が期待される。しかし，職務や校内支援体制の構築，役割認知，ストレスなどに関する研究はあるものの，特別支援学級担任へのサポートに関する研究は少ない。また，特別支援学校は障害に関するセンター的機能として，学校周辺地域の障害のある子どもやその保護者への教育相談，小・中学校教員へのコンサルテーションなどの支援を行っているが，その効果的なコンサルテーションの進め方は未だ体系化されていない。

これらの現状と課題を踏まえ，本論文では小・中学校特別支援学級担任への専門性向上サポートと心理的困難軽減サポートの２つの機能を併せ持つ「ハイブリッドサポートモデル」を提示している。具体的には，①小・中学校特別支援学級担任へ２つをサポートするための効果的なサポート源を明確化した。さらに，②サポート源のうち，特別支援教育コーディネーターと特別支援学校のセンター的機能を取り上げ，小・中学校特別の効果的なサポートを体系化するため，特別支援学級担任の専門性および心理的困難と，この支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支える「ハイブリッドサポートモデル」の特徴と効果について論じた。

別紙１－２

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

第１章では，特別支援教育が始まってから変化の大きい小・中学校特別支援学級に着目し，専門性や心理的困難など小・中学校特別支援学級の現状と課題について先行研究を概観した。現状としては，小・中学校の教員の抱える特別支援教育の経験不足による不安や専門性への自信のなさ，サポート体制がないことへの不安があることを指摘し，また，小・中学校特別支援学級に在籍する子どもの障害の重度化・多様化に伴う指導の難しさの課題もあげられ，担任へのサポートの重要性を示した。これらを受けて，本論文の目的が，小・中学校特別支援学級担任の専門性向上サポートと心理的困難軽減サポートの２つの機能を併せ持つサポート「ハイブリッドサポートモデル」を提示するとともに，サポート源として，特別支援教育コーディネーターと特別支援学校のセンター的機能を取り上げ，「ハイブリッドサポートモデル」についての特徴と効果について明らかにすることであることを示した。

第２章では，小・中学校で特別支援学級を初めて担任する教員の４月から７月までの４か月間を新たな職務への初期適応の時期と位置付け，年度当初に直面する心理的困難と初期適応プロセスにおける効果的なサポートを明らかにすることを目的とした。インタビュー調査の結果，初めて小・中学校の特別支援学級担任となった教員の年度当初の心理的困難について，「教員キャリアの揺らぎ」と「特別支援学級の職務の不安」の２点を， 教育実践を進めていく上での特別支援学級担任の心理的困難として，「子ども理解への不安」「学習指導方法や対応方法についての不安」「職場環境の不安」の３点を示した。また，指導力向上と心理的困難軽減の２つの機能を併せ持つ「ハイブリッドサポート」に該当するサポート源として，「研修システム」「特別支援教育コーディネーター」「特別支援学校のセンター的機能」をあげ，ハイブリッドサポートの特徴を示した。

第３章では，小・中学校の特別支援学級担任の専門性を明確化し，特別支援教育コーディネーターによる小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支える「ハイブリッドサポート」の特徴や効果を明らかにすることを目的とした。インタビュー調査の結果，小・中学校の通常の学級とは異なる特別支援学級の特徴的な構造を踏まえた専門性について，①子どもの理解力，②子どもの指導力・対応力，③授業力・教材作成力，④保護者対応力，の４点を示した。また，特別支援教育コーディネーターによる特別支援学級担任へのハイブリッドサポートについて，専門性向上サポートは研修充実の推進や専門機関からサポートを受けるための調整役を担い，心理的困難軽減サポートとしては，保護者対応や担任の後方支援など身近な相談者としての担任への情緒的サポートの役割を担っていることを示した。専門機関のコーディネート的役割を担うサポートが特徴であるため，特別支援教育コーディネーターによるハイブリッドサポートを「コーディネーション型サポート」と名付けた。

第４章では，特別支援教育に関する校外専門機関である特別支援学校のセンター的機能として行うコンサルテーションの効果や課題を検討し，特別支援学校による小・中学校特別支援学級担任の専門性向上と心理的困難を支える「ハイブリッドサポート」の特徴や効果を明らかに

別紙１－２

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

することを目的とした。特別支援学校のセンター的機能担当教員であった筆者が小学校特別支援学級担任へのコンサルテーションとして実施した自験例を取り上げ，特別支援学校が行う学校コンサルテーションの効用と限界を検証した。特別支援学校が行うコンサルテーションの効用として，①授業場面を通した相談，②専門的立場からの相談，③継続的支援，④保護者への対応サポート，⑤学校機能への介入，の５点を示した。これを踏まえて，特別支援学校が行うハイブリッドサポートの専門性向上サポートの特徴としては,「特別支援学校教員による授業場面を通して行うサポート」「障害に関する専門機関によるサポート」の２点をあげた。また，心理的困難軽減サポートの特徴としては,「子どもへの指導に対する担任の不安への継続的なサポート」「保護者や教員間連携のサポート」の２点があげた。特別支援学校によるサポートは，授業場面に応じたコンサルテーションが特徴であり，授業の工夫など授業場面を中心とした専門性向上の役割と担任の不安な心情に寄り添う情緒的サポートの役割がある。この特別支援学校のセンター的機能によるハイブリッドサポートを「センター的機能型コンサルテーション」と名付けた。

第５章では，ここまでに明らかになった知見を踏まえ，小・中学校特別支援学級担任の専門性と心理的困難及び効果的なサポート源について考察した。小・中学校特別支援学級に在籍する子どもや保護者の量的・質的変化と特別支援学級の特徴的な学級構造を踏まえ，指導力・対応力が特別支援学級担任の専門性であり，人事異動への戸惑いや経験のない特別支援学級担任への不安，担任の裁量の大きい教育課程のための学習内容や指導方法への不安，校内での孤立感，などが小・中学校の特別支援学級担任が抱く心理的困難であることを示した。また，専門性向上と心理的困難軽減の２つの機能を併せ持つ「ハイブリッドサポート」に該当するサポート源として，特別支援教育コーディネーターによる「コーディネーション型サポート」，校外の専門機関として特別支援学校が行う「センター的機能型コンサルティング」,「研修システム」を示した。そして，ハイブリッドサポートの特徴や効果として，専門性向上サポート機能としては，①授業コンサルテーション，②専門機関活用，の２点を，心理的困難軽減サポートの特徴としては，①継続型サポート，②情緒的サポート，の２点を示した。小・中学校の特別支援学級担任への専門性向上が課題としてあげられるが，専門性向上だけでなく心理的困難軽減にも着目したサポートが重要であり，専門性向上と心理的困難軽減の２つの視点から行う「ハイブリッドサポート」が特別支援学級担任の職務への適応を支える効果的なサポートとなることを示した。

本論文に対して，審査委員からは次のような指摘がなされた。①専門性向上と心理的困難軽減のそれぞれのサポートではなく，ハイブリッドサポートにおいて両方のサポートがあることの意義が十分に記述されていない。②ハイブリッドサポートを図式化した図２において第４象限が十分に説明されていない。③ハイブリッドサポートの担い手としては，特別支援教育コー

別紙１－２

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

ディネーターと特別支援学校のセンター的機能しかないのか。④サポートとサポート源が十分に概念化されておらず，混同された記述が多く，それぞれの概念がわかりにくくなっている。

博士学位申請者はこのような審査委員から指摘された研究の問題点や今後の課題についてよく認識しており，今後の研究によって補うことが十分可能であると判断した。これらの問題点があることを踏まえても，本論文が，子どもの個性や育ちの理解が変化する近年において，ますます注目される特別支援教育に着目し，この特別支援教育の中核をなす，小・中学校の特別支援学級担任を支援する概念として，新たに，ハイブリッドサポートという概念を創出し，さらに３つの質的方法を用いて，知見を丹念に積み上げ，このハイブリッドサポート概念を丁寧に論じたことは，この研究分野の発展に寄与しているとみなすことができる。

よって，審査委員は全員一致して，本論文を博士（心理学）の学位に値するものと判断し，論文審査を「可」と判定した。